資料館ノート　第28号　　平成12年7月16日発行

小名木川以北の地域

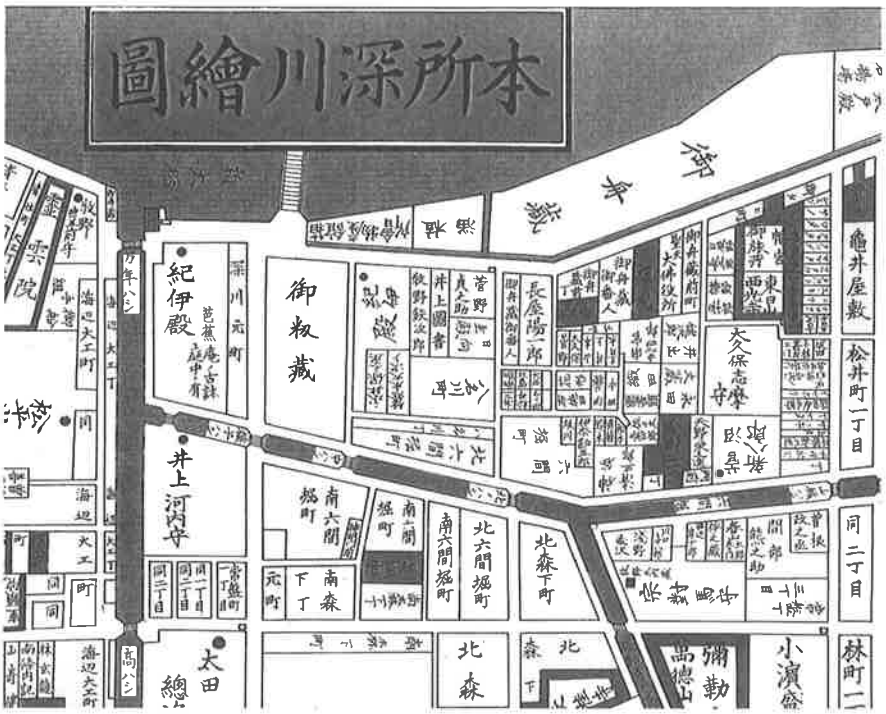
江東区深川江戸資料館

先号から、隅田川沿岸の歴史や文化について特集しています。今回は、小名木川以北の地域について、歴史や史跡を紹介しましょう。

1．両国橋と新大橋

明暦3年（1657）、江戸の町を焼きつくした「振袖火事」（明暦の大火）は、死者10万8千人ともいわれ、江戸幕府にとっても大きな痛手となりました。

過密化しつつあった江戸の町を再開発し、整備しようとした幕府は、隅田川以東の本所深川の開発に着手します。その開発事業の皮切りが、両国橋の架橋でした。



『本所深川絵図』（文久2年　1862）
御船蔵・籾蔵と新大橋・万年橋

寛文元年（1661）に竣工した両国橋は、当初「大橋」と呼ばれていました。しかし、隅田川にはすでに千住大橋が架かっており、混同されてしまうので、両国橋とも呼ばれるようになりました。

橋の架かっている場所は、江戸城常磐（ときわ）橋御門から今の日本銀行を越えて走る、江戸のメインストリートの1つ「本町の通り」が隅田川にさしかかるところにあたり、浅草橋御門も近く、奥州街道へも通じる交通の要衝でした。両国には隅田川を境に分かれていた、武蔵国と下総国をつなぐという意味がこめられています。

橋の両岸は、防災の見地から火除け地（ひよけち）として、広小路が設けられましたが、やがて見世物小屋や水茶屋・茶店がふえ、両国界隈は、浅草・上野などと並ぶ盛り場となりました。

両国橋の架橋から約30年後の元禄6年（1693）に、新大橋が架けられました。現在より100m程下流の高橋通り商店街（のらくろード）の延長線に架けられました。つまり、高橋通り商店街こそが、「元祖新大橋通り」ということになります。

現在の位置へは、明治45年（1912）に移りましたが、橋のたもとには当時の街灯が残されています。移転時に架けられた橋は、今は明治村にありますが、大きな橋名板が八名川小学校の敷地内に残されています（ひらがなの橋名板。漢字は明治村へ移されました）。昭和52年（1977）に架けられた現在の橋には、中央に立つオレンジ色の柱に、歌川広重の名所江戸百景で描かれた「大はしあたけの夕立」がレリーフになっています。

2．幕府の施設

新大橋の北側には、隅田川に沿って幕府の御船蔵が設けられていました。隅田川沿岸で江戸湾にも近いこと、土地の確保が容易であったことから建てられたのですが、江戸時代初期には豪華な幕府御用船・安宅丸（あたけまる）が繋留されていました。この船はあまり使われずに腐朽し、取り壊されてしまいました。しかし、14棟の船蔵は存続し、幕府御用船が格納されていました。

そのため、この付近の町は江戸時代には御船蔵前町と呼ばれました。また、明治初期から昭和初めにかけては、現新大橋1丁目あたりを、安宅丸

『江戸名所図会　新大橋三派』
向かって左が深川です。絵中央の中洲によって三股がつくられています。月見や納涼の名所となり、茶店などで、にぎわった時期もありました。

にちなんで安宅町と名付けていました。

江戸時代中頃まで、新大橋のたもとに深川橋富町（現常盤１）という町がありました。寛政７年（1795）ここに、幕府の籾蔵（もみぐら）が建てられました。

これは、町々の運営経費（町入用）を節約し、節減額の70％を「七分積金」として積み立て、さらにその資金を元に飢饉や天災時の備蓄米を買い入れて貯蔵するための蔵です。南北50間・東西80間、４千坪の土地に洪水に備えて１～３尺ほどの盛り土をし、５間×30間の土蔵が11棟建てられたといわれています。明治５年（1872）に廃止されるまで、災害の度に庶民のくらしを救ってきました。

３．　小名木川付近

小名木川が隅田川に注ぐところに、万年橋があります。万年橋の北岸には川船番所がありました。

江戸を出入りする、人と荷物を改めることを目的に設けられた番所ですが、江戸幕府成立以前からの掘割・小名木川が流通量の多い、物資輸送の機能を十分に果たしていた運河だったことを示しています。

番所の創設年代は不明ですが、江戸初期に置かれて、寛文元年（1661）には明暦の大火後の掘割の整備により、小名木川東端の中川口に移りました。

万年橋は、江戸時代からの橋ですが、ここから富士山を眺めることができました。今は橋の北詰にポケットパークがあり、葛飾北斎「富嶽三十六景」のレリーフが置かれています。

さらに万年橋北詰を隅田川寄りに入ったところに芭蕉稲荷があり芭蕉庵跡とされています。その奥には芭蕉記念館展望庭園があります。石段を上がると隅田川と小名木川が合流して、手前に清洲橋、遠くに石川島の高層マンションまで見渡すことができます。園内には江戸以来さまざまな人によって描かれた芭蕉と芭蕉庵のパネルが並んでいます。中央の芭蕉像は、時間によって体の向きが変わります。

展望庭園の手前にある正木稲荷は、江戸時代には眺望の良さと腫（は）れ物・おできに効能があることから江戸の人々の人気を集めました。

芭蕉記念館とあわせて散策が楽しめるコースです。

『絵本隅田川両岸一覧』葛飾北斎画　御船蔵の屋根が連なっています。